経済同友会 つながる▶▶▶

RELAY TALK #298

紹介者
倉橋 隆文
SmartHR
取締役COO

神宮 由紀
フューチャー
取締役

長崎と爆竹

長崎は爆竹の消費量日本一である。調べてみると日本の消費量の半分は長崎のようで、そのほとんどは８月15日の「精霊流し」で使われる。

「精霊流し」というと、さだまさしさんの曲のように静かなお見送りをイメージする方が多いと思うが、実際はまったく違う。初盆の方の霊を「精霊船」という木製の船に乗せ、爆竹や花火の賑やかな音とともに送り出す長崎伝統のお盆の行事である。

お墓では花火でお迎えし、精霊流しの際は大量の爆竹を鳴らすので耳栓が必須だ。故人を偲ぶ寂しい気持ちと、盛大に送ってあげたいというお祭り好きの長崎っ子らしい粋な部分が混じり合う特別な日だ。

私も祖父を見送る際は、家族で時間をかけて大きな船を手作りした。その過程でさまざまな思い出話をし、祖父が好きだったものや綺麗な花で装飾することで、祖父のためでもあるが、私たち家族が悲しみを乗り越え、最後に精いっぱいのことができたと区切りをつけることができた。

精霊流しのように、故郷を出て初めて全国には知られていないたくさんの魅力があることに気付く。

「長崎くんち」もその一つだ。58カ町のうち、その年に奉納踊を披露する町を踊町といい、当番は７年に一度。龍踊（じゃおどり）は有名だが、踊町ごとに多様な演じ物がある。

昨年久しぶりに帰省して見に行ったが、鯨の潮吹きも出ていた。鯨の姿をした曳（ひ）き物と船頭船で日本の古式捕鯨が表現され、潮吹きの名の通りかなりの水を使い迫力満点だ。私も踊町で生まれ育った人間なのでやはり血が騒ぐ。

毎年違う演じ物は一見の価値がある。ぜひたくさんの人に見てほしい。

多様な文化を取り入れて柔軟に変化してきた長崎だからこそ、文化を継承しつつ進化させ、世界に開かれた場所として輝いてほしいとあらためて思う。大好きな故郷長崎、そして同じように全国の魅力溢れる地域のために、何ができるのかを考えて行動していきたい。

▶▶次回リレートーク
渡辺 治子
アメリカンホーム医療・損害保険
取締役社長 兼 CEO